

## 調査結果報告書本文



## 第1章 調査の概要・回答者属性、報告書構成等

### (1) 調査の概要

#### 調査の目的

本調査は、2018年度卒業・修了予定者の就職・採用選考活動の実態を把握することにより、来年度以降の就職・採用活動の円滑な実施に資することを目的として実施した。

#### 調査の実施方法

地域、設置主体、規模等を勘案して選定した全国の約60の大学に協力いただき、それらの大学から、大学4年生及び大学院修士課程（博士前期課程）2年生にアンケート調査への協力を依頼していただいた。なお、医学科・薬学科・歯学科・看護学科・獣医学科の学生や海外からの留学生については調査の対象外である旨を案内の上で実施した。

各学生には、インターネット上に開設したアンケート調査のホームページにアクセスし、回答していただいた。ホームページは、2018年7月13日から8月10日までの間開設した。

#### 回答状況

対象学年別の有効回答件数は図表1-1の通りである。なお、社会人経験があり元の職場に復帰予定の者や、進学等を予定しており就職活動をする予定がない者等については、集計の過程において、適宜対象から除いて集計を行った。

図表 1-1 学年別の有効回答件数

対象	大学4年生	大学院2年生	合計
有効回答件数	7,575	2,268	9,843

※学年について「その他」と回答があった105件については有効回答の対象外とした。

#### 分析委員会の開催

調査分析結果については、以下の方々から構成される調査分析委員会を開催し、集計の方法や報告書の取りまとめの方向性等について助言を受けた。

#### <分析委員会委員> (50音順)

- 川崎友嗣氏（関西大学社会学部 教授）
- 濱中義隆氏（国立教育政策研究所高等教育研究部 総括研究官）
- 堀有喜衣氏（労働政策研究・研修機構人材育成部門 主任研究員）

#### 調査企画

内閣府政策統括官（経済財政運営担当）付参事官（予算編成基本方針担当）  
内閣府政策統括官（経済財政運営担当）付参事官（企画担当）

#### 調査実施・集計

株式会社浜銀総合研究所

## (2) 回答者属性

本調査への回答が得られた学生の属性に関して、①性別、②大学・大学院の設置主体、③専攻、④大学・大学院の所在地域による割合を、対象学年別に図表 1-2～図表 1-5 に示し、それぞれ右欄に 2018 年度の学校基本調査<sup>3</sup>（文部科学省調べ）の情報（速報値）について掲載した<sup>4</sup>。

本調査の回答者の属性の状況を、学校基本調査に基づく全国の母集団の状況と比較すると、性別については大学 4 年生で「女性」からの回答割合が高くなっており、大学・大学院の設置主体については、大学院 2 年生で「国立」からの回答割合が高いなど、若干の偏りが生じている状況にあることが把握される。

図表 1-2 性別

	大学 4 年生		大学院 2 年生	
	本調査	2018 年度 学校基本調査 (速報値)	本調査	2018 年度 学校基本調査 (速報値)
男性	45.7%	56.4%	72.6%	68.5%
女性	54.3%	43.6%	27.4%	31.5%
集計度数	7,575	666,040	2,268	84,494

図表 1-3 大学・大学院の設置主体

	大学 4 年生		大学院 2 年生	
	本調査	2018 年度 学校基本調査 (速報値)	本調査	2018 年度 学校基本調査 (速報値)
国立	19.5%	18.1%	67.9%	58.9%
公立	3.3%	5.3%	6.0%	6.5%
私立	77.1%	76.7%	26.1%	34.6%
集計度数	7,575	666,040	2,268	84,494

<sup>3</sup> 学校基本調査は、全国全ての学校を対象とした、統計法（平成 19 年法律第 53 号）に基づく基幹統計調査である。

<sup>4</sup> 調査対象として医学科・薬学科・歯学科・看護学科・獣医学科の学生は対象外としていることから、学校基本調査の情報のうち「専攻」について、「保健」の学生数を除いた値を参照した。ただし、性別や設置主体別、地域別のデータについては、一部「保健」を専攻している学生を取り除いた値の算出が困難であったことから、「保健」の者も含めた値を参照している。（図表 1-4 は「保健」専攻の学生を除いた値、図表 1-2、図表 1-3、図表 1-5 は「保健」専攻の学生を含めた値）

図表 1-4 専攻

	大学 4 年生		大学院 2 年生	
	本調査	2018 年度 学校基本調査 (速報値)	本調査	2018 年度 学校基本調査 (速報値)
人文科学	21.7%	16.5%	4.8%	7.5%
社会科学	46.5%	37.4%	7.5%	11.0%
理学	5.8%	3.6%	29.3%	9.3%
工学	10.0%	17.5%	42.3%	43.2%
農学	2.2%	3.3%	9.4%	5.7%
保健	2.3%	—	1.4%	—
商船	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
家政	1.2%	3.1%	0.3%	0.6%
教育	3.5%	8.4%	1.6%	6.0%
芸術	0.6%	2.9%	0.6%	2.9%
その他	6.0%	7.3%	2.9%	13.8%
文系	79.6%	75.6%	17.5%	41.7%
理系	20.4%	24.4%	82.5%	58.3%
集計度数	7,575	597,515	2,268	78,070

※「人文科学」、「社会科学」、「家政」、「教育」、「芸術」、「その他」を「文系」とし、「理学」、「工学」、「農学」、「保健」、「商船」を「理系」としている

図表 1-5 大学・大学院の所在地域

	大学生		大学院生	
	本調査 (大学 4 年生)	2018 年度 学校基本調査 (速報値)	本調査 (大学院 2 年生)	2018 年度 学校基本調査 (速報値)
北海道・東北	5.0%	7.2%	14.3%	8.7%
関東	35.8%	43.9%	42.4%	42.4%
中部	10.8%	12.8%	1.3%	13.1%
近畿	31.0%	21.1%	25.3%	20.2%
中国・四国	8.3%	6.6%	11.3%	7.1%
九州・沖縄	9.0%	8.3%	5.4%	8.5%
集計度数	7,575	2,599,805	2,268	254,037

※「北海道・東北」は、北海道、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県が該当する

※「関東」は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県が該当する

※「中部」は、山梨県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県、静岡県、愛知県、岐阜県が該当する

※「近畿」は、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県が該当する

※「中国・四国」は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、香川県、愛媛県、徳島県、高知県が該当する

※「九州・沖縄」は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県が該当する

### (3) ウェイトによる補正

就職・採用活動の状況は、文系・理系などの属性別に差異があると考えられたことから、実態について集計結果を示すにあたっては、可能な限り回答者の属性分布を母集団に近似させることが望ましいと考えられた。そこで、本調査では、「性別」「大学・大学院の設置主体」「文系・理系別」の3点について、それぞれのバランスが母集団に近似するようにウェイト付けを行った上で集計を行うこととした。

なお、2015年度調査から2017年度調査においては、原則として大学4年生と大学院2年生の集計を別々に行っていたが、本調査では、大学4年生と大学院2年生とを合わせた集計も行い、結果を掲載した。大学4年生と大学院2年生とを合わせた集計を行う際にも、学校基本調査の在学者数を基にしたウェイトによりデータの補正を行うこととし、2015年度調査から2017年度調査についても、大学4年生と大学院2年生とを合わせた集計結果を示す際には、同様の方法により集計を行った。

分類別のウェイト値は、大学4年生・大学院2年生を合わせた集計結果を示す場合と、別々に示す場合とで、それぞれ図表1-6と図表1-7に示したように設定をした。また、①性別、②大学・大学院の設置主体、③専攻、④大学・大学院の所在地域のそれぞれについて、ウェイトによる補正後の分布は図表1-8～図表1-11のようになっている<sup>5</sup>。

これらから、ウェイト補正後は、「性別」「大学・大学院の設置主体」「文系・理系別」の3点について、母集団における分布と近い構成比になっていることが確認できる<sup>6</sup>。ただし、専攻の内訳と大学・大学院の所在地域については直接的にウェイト付けの対象としなかったことから、母集団の分布と比べて若干の偏りが生じている状況にある。

図表 1-6 大学生・大学院生をまとめて集計する際のウェイト値

本調査			大学4年生	大学院2年生
男性	国立	文系	0.9041	1.1570
		理系	1.8761	0.3556
	公立	文系	1.8667	1.6161
		理系	1.7591	0.3731
	私立	文系	1.4876	0.9853
		理系	1.5726	0.4810
女性	国立	文系	0.7507	1.0207
		理系	0.8098	0.1748
	公立	文系	1.6110	2.2685
		理系	1.0242	0.2701
	私立	文系	0.8824	1.7436
		理系	0.7550	0.4840

※ウェイト値について四捨五入の上小数点以下第4位まで掲載しているが、実際には小数点以下第15位までの値に基づいてウェイト付けを行っている。

<sup>5</sup> ウェイト補正後の集計値に関しては、四捨五入等している関係で、設問により、選択肢ごとの度数と度数合計が一致しない場合がある。また、集計結果の割合(%)は、小数点第2位を四捨五入した上で表示しているため、内訳の計が100%にならない場合がある。

<sup>6</sup> 専攻の内訳と大学・大学院の所在地域については直接的にウェイト付けの対象としなかったことから、母集団の分布と比べて若干の相違があるが、細部まで補正を行うことが困難であったことから、「性別」「大学・大学院の設置主体別」「文系・理系別」の3点について補正したデータにより集計を行った。なお、ウェイト付けの際には、専攻について「保健」の者を除いた形で値を算出した。このことにより、ウェイト補正後の「性別」「大学・大学院の設置主体別」の分布について、図表1-2、図表1-3に掲載した構成比とは若干異なる値になっている。

図表 1-7 大学生・大学院生を別々に集計する際のウエイト値

本調査			大学4年生	大学院2年生
男性	国立	文系	0.7867	2.3070
		理系	1.6325	0.7089
	公立	文系	1.6243	3.2224
		理系	1.5307	0.7438
	私立	文系	1.2944	1.9647
		理系	1.3684	0.9591
女性	国立	文系	0.6532	2.0352
		理系	0.7046	0.3486
	公立	文系	1.4018	4.5233
		理系	0.8912	0.5385
	私立	文系	0.7678	3.4765
		理系	0.6570	0.9651

※ウエイト値について四捨五入の上小数点以下第4位まで掲載しているが、実際には小数点以下第15位までの値に基づいてウエイト付けを行っている。

図表 1-8 性別（ウエイトによる補正後）

本調査	全体	大学4年生	大学院2年生
男性	60.1%	58.7%	70.6%
女性	39.9%	41.3%	29.4%
集計度数	9,843	7,575	2,268

図表 1-9 大学・大学院の設置主体（ウエイトによる補正後）

本調査	全体	大学4年生	大学院2年生
国立	22.9%	18.1%	59.1%
公立	5.0%	4.8%	6.5%
私立	72.1%	77.1%	34.4%
集計度数	9,843	7,575	2,268

図表 1-10 専攻（ウエイトによる補正後）

本調査	全体	大学4年生	大学院2年生
人文科学	18.5%	19.3%	11.9%
社会科学	43.2%	46.6%	17.4%
理学	8.4%	6.8%	20.7%
工学	15.1%	12.9%	31.4%
農学	2.6%	2.2%	5.4%
保健	2.2%	2.4%	0.8%
商船	0.0%	0.0%	0.0%
家政	1.0%	1.0%	0.9%
教育	2.8%	2.8%	3.4%
芸術	0.7%	0.6%	1.5%
その他	5.5%	5.4%	6.7%
文系	71.7%	75.6%	41.7%
理系	28.3%	24.4%	58.3%
集計度数	9,843	7,575	2,268

図表 1-11 大学・大学院の所在地域（ウエイトによる補正後）

本調査	全体	大学4年生	大学院2年生
北海道・東北	5.7%	5.0%	10.8%
関東	37.5%	36.5%	44.9%
中部	9.7%	10.7%	2.1%
近畿	30.8%	31.1%	28.6%
中国・四国	7.8%	7.6%	9.0%
九州・沖縄	8.5%	9.0%	4.7%
集計度数	9,843	7,575	2,268

#### (4) 報告書の構成・留意事項

本報告書の構成は次のようになっている。

- 第1章：調査の概要・回答者属性、報告書構成等
- 第2章：就職活動に関する認識と学修時間確保の状況等
- 第3章：就職活動内容
- 第4章：企業による学業などに対する配慮の状況等
- 第5章：文系・理系別の集計
- 第6章：就職予定の企業への入職経路別の集計
- 第7章：就職予定の企業の業界別の集計
- 第8章：就職活動地域別の集計

本報告書に掲載した集計は、ウェイト補正後のデータに基づき集計を行った。なお、第2章～第4章については、原則として大学4年生・大学院2年生を合わせて集計をした結果と、別々に集計した結果の両方を掲載した。また、2015年度調査、2016年度調査、2017年度調査<sup>7</sup>との比較を行い、回答傾向の違いについて把握した。

第2章では、就職活動時期に関する学生の認識として、時期に関する認知度や、時期別の学修時間確保の状況等について集計を行った。第3章では、実際にどの時期に就職活動が行われ、どの時期に学生が内々定を受けたのか等について把握した。第4章では、就職活動実施にあたり企業側による配慮等があったかという点に着目して集計を行った。

第5章～第8章に関しては、第2章～第4章で扱った設問項目の一部について、属性等別の集計を行った。原則として大学4年生・大学院2年生の別に、第5章では文系・理系別、第6章では就職予定の企業への入職経路別<sup>8</sup>、第7章では内々定を受けた就職予定の企業の業界別、第8章では主な就職活動地域別<sup>9</sup>の集計を行い、それぞれの分類別の差異を明らかにすることを試みた。なお、これらの属性等別の集計結果の一部は、巻末に「参考資料」としても掲載した。

<sup>7</sup> これら3ヶ年の調査を合わせて「過年度調査」と表記する。また、今回2018年度に実施した「学生の就職・採用活動開始時期等に関する調査」を「今年度調査」と表記する。なお、2016年度調査、2017年度調査、今年度調査は8月1日時点で実施しているが、2015年度調査は10月1日時点で実施した。

<sup>8</sup> 本報告書では、理系の学生について、「自由応募（WEBサイト等からのエントリー等）」であった者、「会社側からの案内（リクルーターや大学のOB/OG等）」であった者、「教員や大学の推薦/指定校」であった者の3つの分類による集計を行った。

<sup>9</sup> 本報告書では、東京圏大阪圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、大阪府、京都府、兵庫県、奈良県）とそれ以外の地域の区分に着目し、大学所在地と就職活動地域との組み合わせにより分類し、集計した。

本報告書に掲載した集計結果等に関しては、次のような点に留意されたい。

- 集計結果の割合 (%) は、小数点第 2 位を四捨五入した上で表示しているため、内訳の計が 100%にならない場合がある。
- 設問には選択肢からひとつだけ回答するものと、選択肢から複数の項目を回答するものがあり、複数回答する場合の設問では、選択肢別の集計結果の割合合計が 100%を超える場合がある。
- 本報告書で扱う今年度調査の集計について、ほとんどの設問は「就職活動を行った (終えた)」「就職活動を行っている (継続している)」と回答した者が集計対象であるが、一部の設問は「これから就職活動を行う予定である」と回答した者も集計対象に含んでいる。このほか、一部の回答者を除いて集計をしている設問があるが、これらの点はページ下部の注釈にて説明を記載した。